

令和 7 年度 北区立小学校学力向上を図るための全体計画

令和 7 年度「北区基礎・基本の定着度調査」を受けての各教科の分析	
国語	学校全体（２～６年）の国語の正答率は、２～４学年が目標を上回っているが、５・６年生が目標を下回る結果となった。中学年は「漢字を書くこと」にやや課題が、高学年は思考力・判断力・表現力を問う問題に課題が見られた。説明文の内容を読み取ったり、調べたことをもとに文章を書いたりする活動を日常的に取り入れることや、学習した漢字を普段から活用していく習慣を付けること等、低学年のうちから取り組ませていく。
社会	学校全体（５、６年）の社会の正答率は、全ての学年が目標値を下回っている。知識の定着に課題が見られるため、学習後に復習を十分に行い、知識・技能の定着を図っていく。その上で、資料を読み取り活用する力もつけさせたい。
算数	学校全体（２～６年）の算数の正答率は、１～５学年が目標値を少し上回ったが、６学年は下回った。既習事項の確実な定着を図り、基礎・基本の力を培っていくと共に、基礎・基本を活用して考える問題にも積極的に取り組ませていく。
理科	学校全体（４～６年）の理科の正答率は、全ての学年が目標値と同等か、もしくはそれを下回っている。各学年において、基礎・基本の定着を図りつつ、観察・実験などを通じて、科学的に探究する学習活動（主体的に学習に取り組む活動）における指導の充実を図っていきたい。
外国語	外国語の正答率は、目標値よりわずかだが下回っている。「アルファベットの書き」に苦手意識をもつ児童が増えている傾向にあるため、英語を書く活動を意識的に取り入れ、慣れ親しめるよう授業の改善を行っていく。

本校の教育目標
◎よく考える子
○体をきたえる子
○思いやりのある子
○最後までやりぬく子

本校が児童に育成したい力
・生きて働く「知識及び技能」の習得 ・未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力」の育成 ・学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」の涵養
校内における学力向上推進体制
学力向上に関する特別委員会（研究推進委員会、学力向上・少人数推進委員会、通知表委員会、特別支援教育委員会）、分掌（授業改善推進プラン、学校図書館、放課後補充教室（学力フォローアップ教室）等を有機的に機能させ、児童の学力向上を図る。

学力向上にかかわる経営方針
「学校は勉強をするところ 集団生活（社会性）を学ぶところ」 ・子どもが達成感と満足感を感じ、挑戦しようとする意欲をもつ学校づくりを推進 「確かな学力の定着」 ・少人数習熟度別指導、個に応じた指導・補充学習・家庭学習・校内研究

本校の授業改善に向けた視点				
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
・課題解決型・探究型授業の実践 ・児童に「わかる」「できる」喜びを味わわせる授業づくり ・学習活動「振り返り」の充実と継続 ・十分な教材研究によるねらいの明確化 ・児童が主体的に取り組む学習活動 ・GIGAスクール構想に基づく、きたコンの積極的な活用 ・WEBＱ－Ｕ調査を活用した学級経営	・授業時間確保のための学校行事の継続的な見直し ・放課後補充教室（フォローアップ教室）の充実 ・きたコンを活用した学習タイムの推進（個別最適化した学習） ・日本語学級の充実と担任との連携 ・算数科少人数習熟度別指導（３～６年）による確かな学力の定着	・国語科における、言語活動（話す・聞く）を充実させるための工夫を通し、児童の主体性を育むことを目指した授業づくりについての校内研究 ・授業改善を図るための、教員同士の積極的な授業参観-ブロック会での事後検討を通して- ・組織的で授業に生かせるＯＪＴ（校内研究関係、情報モラル等）	・児童の実態に即した評価規準に基づいた観点別評価の実施 ・評価規準や評価方法の工夫・改善（きたコンを利用したデジタルポートフォリオの活用） ・きたコンを活用した教科横断的な学習計画の作成 ・PDCAサイクルを意識した指導と評価の一体化	・学校ファミリーにおける情報交換 ・地域の教育力の活用 ・保育園等との交流 ・ホームページの充実と更新 ・学校ボランティア、ＰＴＡとの連携 ・学校便りの発行（月１回） ・児童の変容を自身も保護者も感じる事ができるキャリアパスポートの活用

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（４年）

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
国語	全体の平均正答率は、区の目標値６６．６％に対して７４．５％と７．９ポイント上回る結果となった。基礎は６．３ポイント、活用は１１．４ポイント上回った。８つの内容別正答率では、８項目のうち７項目上回り、漢字を書く項目においては０．８ポイント下回っている。また、説明文の読み取りでは２５．４ポイント、物語文の読み取りでは１４．４ポイント上回る結果となった。一方で交流会について話し合うは４．１ポイント、文章を書くは２．０ポイントと重点指導項目が顕著に見られた。	新出漢字、既習漢字は、文章の中で使う習慣を付けさせる。くり返し小テストを行い、４年生までの漢字６４２字読み書きできるようにする。学習の中で話し合い活動を意図的に取り入れ、相手を意識して話す・目的意識をもって聞く力を培っていく。メモや気付いたことを文章にする習慣を確立させる。	意味調べや語彙を増やす活動を学習タイムに位置付け、言葉に慣れ親しませたり、国語辞典や百科事典の活用する習慣を身に付けさせる。季節の言葉に触れる句会をしたり、様々な読書に親しむためにビブリオバトルをしたり年間を通して計画していく。
社会	昨年度は自分たちの住む北区、生活に身近な単元から学習問題や社会の見方・考え方について学習した。資料からの読み取りや活用について丁寧に指導をしてきたが、地図記号や方位の見方など定着させる工夫も必要である。	教科書にある写真や資料、動画などをもとにして、自分たちの生活が成り立っている裏側（水、エネルギー、ゴミ処理など）について学び、それらを社会科見学等で実地で体験させ、自分事に捉える目を育む。体験的活動をもとにして、各自がもった課題や解決案、学んで思ったことなどをまとめ方を工夫させ、自身の考えをまとめたり整理させる。	学習したことをもとにして、自分が関心をもった問題や事柄についてまとめたり、自分の意見や考え、案をまとめたり、ICT機器、きたコン等を活用して学習に対する興味・関心を深めさせる。調べる際には、「課題の設定」、「情報収集」、「整理・分析」、「表現・まとめ」の総合的な学習の時間で学んだ探究的なサイクルも活用させていく。個別最適化の観点もとり入れ、一人一人のまとめたい学び方でまとめることができるようにする。
算数	全体の平均正答率は、区の目標値に７１．６％に対して、８１．５％と９．９ポイント上回る結果となった。基礎は９．１ポイント、活用は１２．９ポイント上回った。問題の内容別正答率を見ても、８つの全てで区の平均正答率を上回った。７つは１０ポイントから２０ポイント上回ったにも関わらず、「たし算・ひき算」のみ誤差がなかった。数と計算について丁寧に扱うことが分かった。	「数と計算」について定着を図っていく。九九や四則混合計算などくり返し取り組ませせる。大きい数や小数・分数なども既習するので、ICTを活用しながらくり返し取り組ませる。	問題に対して見通しをもって取り組む力を培う必要性がある。比較検討場面で他者の意見を受容する態度を育み、多様な考えにふれたり、意見交流のよさを実感できるようにさせる。北コンを活用し、練習問題や発展問題に取り組ませる。確立された授業の流れをブラッシュアップしていけるよう手立てを講じていく。（ヒントカードやふり返りを次時に活用する）
理科	全体の正答率は、目標値５９．８に対し、校内平均６１．３％と１．５ポイント上回る結果であった。問題の内容別正答率をみると、１１項目のうち５項目で区の目標値僅差で下回った。差がひらかないよう、目標値を超えられるように復習しながら学習に取り組ませる。	「植物の育ち方」「こん虫のからだのつくり」「光のせいしつ」「物の重さ」について、日常生活体験の中からの気付きを大切に考えるようにさせる。観察や記録などから変化を見付けられるよう環境づくりをしていく。実験器具や理科用語など正しく使えるよう指導する。	ICTや動画視聴を活用したり、出前授業を活用したりしながら体験的な授業計画を意図的に立てる。考察やまとめを自分の言葉で書けるようにさせる。多角的・多面的に見る視点を養う指導を行っていく。